

西堂行人教授 最終講義

『大学と劇場をくつなぐ』

<対談ゲスト>

永井愛(二兎社) / 梅山いつき(近畿大学准教授)



西堂行人(明治学院大学芸術学科教授)

演劇評論家。明治学院大学教授。国際演劇評論家協会(AICT)日本センター会長。演劇批評誌『シアターアーツ』編集長、日本演劇学会理事などを歴任。日韓演劇交流センター副会長。読売演劇大賞、朝日舞台芸術賞、京都賞、日本文化振興基金などの審査員を務める。主な著書に、『演劇思想の冒険』、『ハイナー・ミュラーと世界演劇』、『劇的クロニクル』他多数。



日時

2023年3月11日(土)
14:00~17:00(開場13:30)

会場

明治学院大学白金キャンパス
2号館 2階 2301教室

入場無料・申込み要※

申込
方法

※当日直接お越しただいてもご参加いただけますが、時勢柄、下記googleフォームURL、またはQRコードにて事前登録のご協力をお願いいたします。

<https://forms.gle/oCax6Jp2QToGQP3N9>

交通
案内

東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線
「白金台」駅 2番出口より徒歩約7分

東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線
「白金高輪」駅 1番出口より徒歩約7分



主催:明治学院大学文学部芸術学科

お問合せ: 明治学院大学文学部芸術学科共同研究室
art@ltr.meijigakuin.ac.jp

【プログラム】

14:00～15:00 I：レクチャー「大学と劇場をくつなぐ」

＜休憩＞

15:15～16:30 II：談「現代演劇の場所」

ゲスト：永井愛(二兎社)

梅山いつき(近畿大学准教授)

16:30～17:00 III：学生との対話

I. レクチャー「大学と劇場をくつなぐ」

大学という教育・研究の場と、劇場という表現・実践の場、この2つの場をわたしは絶えず行き来してきた。どちらが主でどちらが従というわけではなく、ほぼ均等の比重をもって四半世紀にわたり駆け抜けてきたように思う。つねに動きつつ変化していくことこそが、わたしの生きる場だった。

大学と劇場をくつなぐことは果たして可能か。その課題を考えてみたい。

II. 談「現代演劇の場所」

1960年代後半以降に開始された現代演劇は、「アングラ・小劇場運動」と呼ばれ、街中に忽然と出現するテントや小劇場は、アナーキーで自由な場であり、解放のシンボルであった。とすれば、劇場は教室に似てくる。授業の内実は都市の演劇の中心に送り込まれ、翻って劇場での行為は、教室での思考と批評の対象となる。この往還こそが、わたしが大学 / 劇場を通して生産してきた試みである。

＜明治学院大学に在籍した6年間に刊行した7冊の著作＞

『唐十郎特別講義』(唐十郎との共著)、『蜷川幸雄×松本族吉 二人の演出家の死と現代演劇』(以上 2017)、『日本演劇思想史講義』(2020、第二版 2022)、『ゆつくりの美学 太田省吾の劇宇宙』、『コロナ禍を生き抜く演劇論 学生が見た2020 / 22ドキュメント』(明治学院学生との共著、以上 2022)、『敗れざる者たちの演劇志』(流山児祥との共著)、『新時代を生きる劇作家たち』(2023 刊行予定)

※当日ご来場いただいた皆様に『新時代を生きる劇作家たち』をお渡しいたします。